

女性のための各種依存症からの回復支援施設
リバティィー・ウィメンズハウス・おりーぶ | 広報誌

じぶん

秋

2022 AUTUMN
Vol.03



あなたにふさわしいやり方で 生きてみませんか？



じぶんへ
かえろう

olive

おりーぶスタッフ

「蛍先生からの声・メッセージ」

秋の特集

2022 recovery

やりたいことが駄目になっても
できることが視えてくる

困難な問題を抱える家族も悩まないで！

家族会もくせいくらぶ

このたび一般社団法人になり活動の輪が広がりました♪



△HPへのアクセス
はこちら

ごあいさつ

PRESIDENT MESSAGE



おりぶのメンバーの中の多くは、幼少期からの虐待や、いじめを受けた経験から人を信じられない、それでもよく思われたいという相反した感情を持つ人も多いです。そして、人との付き合い方や距離感に悩みがあることが特徴です。

ですから、あえて一人になってはいけません。おりぶは少人数のホームで、家族でもなく、友達でもなく、仲良しでもなく、好きでもない人たちと、小さな意見の食い違いや、小さな喧嘩を繰り返しながらでも、平穏に暮らすことができるよう練習をするところです。

ミーティングは正直な分かち合いをするところ。ここでは友達をつくるとか、仲良しのふりをしなくてもいいのです。自分の身体と心は自分のもの。仲間の身体と心は仲間のもの。

今抱えている問題がとても大きくて、不安に押しつぶされそうになっても、自分のことが好きになれなくても、すこしでもこのままでは嫌だと思ふ気持ちがあるなら、変わりたいという気持ちだけをもって仲間になってほしいのです。自分の問題は自分のもの、仲間の問題は仲間のもの。

おりぶでは、一人の人のだけに、助けをもらうことは、出来ませんが、信頼できる人からばかりではなく、好きでもない人から助けをもらうことも経験ができます。

自分の考えていた方法ではなくても、最善の結果が与えられることを経験することで、新しい気づきが、勇気となります。

理事長 山本良子

🌿 おりーぶ利用者の声

ニックネーム：汐と沙さん どう生きていくかについて



私はおりーぶに入所する前、旦那と2人で暮らしていました。しかし、生活する能力が無く、それでもどうにか生きてきたんですが無理になって、おりーぶとつながりました。正直入所するまでも迷いがあってギリギリまで引きのばして、どうにかならないかとやっていたんですが、上手くいかず結果入所することになりました。

最初は嫌で嫌でしょうがなかったんですが、プログラムに出て仲間と共にやっていくうちに知らなかった自分の事を知れたり、がんばることの大切さとか改めて考えられるようになったのは良かったです。

一人暮らしに向けて仕事を長く続けて家もゆくゆくは見つけて退所したいと思っています。2年以上おりーぶにいて、「したことがないことに挑戦すること」を学べたのは、とても大きなことだと思いました。

人生の小休憩

ニックネーム：moonさん

幼い頃から周りの目を気にしてそれに合わせようと努力していた自分。しっかりしているフリをするのが得意でした。

両親の離婚をきっかけに摂食障害に。親や身内のお金を盗んだあげく借金を抱え仕事も鬱病で働けず自己破産をしました。何度も死のうと試しましたが結局出来ず逃げ場もなかった頃、主治医の紹介で施設を



知り、助け舟をだすように施設に入所しました。おりーぶに入所してからは、内にある自分自身と向き合えるようになりました。入る前より考え方が楽になり様々な事情を抱えた仲間と同じ時を過ごす中で少しずつ背負っていた荷物を肯定的に降ろせるようになりました。誰かを頼るって悪い事ではないんだと気づき、鬱も抜け出せたような感覚でいます。 今後は、自分のシミも込めて愛せるようになりたいです。

不安は尽きませんが、叶えたいと思う夢が沢山あるので視野を広げながら、本当の自分で在り続ける為の練習を一人ではなく仲間と共にしていきたいと思っています。

特集 | 蛭先生からの声

メッセージ

『やりたいこと』が駄目になっても
『できること』
が視えてくる



Profile

いじめが原因で中学2年生から不登校に。
芸術分野での自立を目指す、環境やストレスにより
創作活動に限界を感じ挫折・・・。
紆余曲折あり定時制の高校を経て福祉系の大学へ進学

- ・精神保健福祉士
- ・社会福祉士
- ・サービス管理責任者

などの資格を周りの人達よりもかなり遅れながらも
取得し、現在はおりーぶにて各種事務手続きや、公的
機関への申請業務などを幅広くこなしながら、ムード
メーカーとして仲間の信頼も厚い。

おりーぶでスタッフをしております、
蛭（ホタル）といます。

おりーぶには各種依存症のケアに

精通した各専門分野のスペシャリストが在籍する中で・・・一応、私は、「事務方のエース」
だと仲間から呼ばれ、きちんと社会生活を送る全うな大人のような顔をしています、
いえいえそんな・・・じつは私、

小・中学校でいじめにあい、中2から学校に行かなくなりました。

18歳の時に隣県の専門学校に行き絵の勉強をするため、寮に入りました。芸術分野の学校は
講師も仲間も個性的な方が多く、トラブルが多数あり、周りが病んでいきました。目の前で
仲間が過呼吸をおこして倒れたときに、自分の無力さを痛感しました。私自身も自律神経失
調症を患って実家に戻って療養することになり、心の病の勉強をしようと思いました。

通信制高校への進学や高卒認定など、独学で勉強するのは昔失敗していたので無理だと思い、
定時制高校に4年通い、そこから福祉系大学へ進学して精神保健福祉士の資格を取得しました。

周りの人より6年遅れて大学を卒業したため就職活動は難航しましたが、初めて勤めたところは
障害者施設のパン屋でした。利用者さんを連れて毎日パンを売りに出かけ、支援よりも売り上
げをどうやって上げるかということを求められていました。
辞めるときにまとめてとった有給休暇期間を勉強に充て、
社会福祉士資格を取得しました。

その後パン屋時代にお世話になった人のついで、
他の作業所に転職しました。ここではサービス管理
責任者の資格もとらせてもらい、管理職の仕事も任
されるようになりました。



その頃プライベートでは、**ダーツバーに夜な夜な通うようになり**、オーナー親子と仲良くなりました。稼いだお金の殆どをダーツバー通いにつぎ込み、オーナーの息子と一緒に掛けては**財布を私が出すようになり**ました。

オーナー息子が車を買替えることになり、一括で買うお金はなくローンが組めない人だったので、私が代わりに200万ほどのローンを組みました。また、オーナー息子は犬を飼っており、もう1匹増やしたいという話になったので、ブリーダーから購入していっしょに飼うようになりました。

次第にそんな生活に疑問を感じ、見切りをつけて別れ話をしました。

2匹目の犬は私が買った子だから連れて行きたいと話すと、「世話をしているのは俺だから許さない。そんなことをしたら鉈（ナタ）を持ってお前の家に入り込んでやる」

と言われ、**恐怖でしかありませんでした**。

どこかに逃げなければ**殺される**と思いました。

そのことについて大学時代からの10年来の友人に相談した結果、県外住まいのその**友人と結婚**して地元を脱出することにしました。

ローンの返済のことについては包み隠さず親に相談すると、今まで私が実家に入れていた食費を、何かあった時のために貯金してくれていたため、**そのお金で一括返済**しました。

オーナー父母は返すと言ってくれましたが、今すぐ返せるあてもないし、今後も連絡をとりあうのが苦痛でしかなかったため辞退しました。そうして、縁もゆかりもなかった滋賀県で暮らすことになったのです。



滋賀県に引っ越してきてからは、**不妊治療に専念**するため、5年間専業主婦をしていました。しかし**恵まれることはなく**、40歳というきりのいい年齢になり、子どもは諦めようと旦那と話し合って決めました。不妊治療をやめるのなら私は資格を活かしてまた福祉の仕事がしたかったのですが、**旦那は専業主婦をしてほしいと希望**していました。一馬力で余裕があるほどの生活ではなかったし、なるべくお金を使わないように引きこもりの生活をしていたのが辛く、私は**どうしても働きたかった**のです。

離婚しようと旦那から持ち掛けられ、私も限界を感じていたため同意しました。まずは別居し、私の生活基盤が整うまで籍だけ入れておくことにしたのです。

そうして別居後に仕事探しのため求人サイトに登録をしていたところ、**おりーぶ**理事長に声をかけられて、**おりーぶで働くことになりました**。



利用者さんの生活基盤を整える調整をおこなう現在の仕事は、昔自分が精神保健福祉士を目指した時の志に近いのではないかと思いながら今の仕事に就いています。

これらの経験から私が思うことは、ドロップアウトして義務教育が欠けていても勉強して資格を持っていれば、資格は荷物にならないということです。スタートが遅れた分だけ最初は上手くいかなくても、**経験がついてくればステップアップは自ずとできてくる**。なので、将来こうなりたいという気持ちと計画を立てて諦めなければ、目標は叶えられるものだと思います。

各種依存者家族の自助グループ

もくせいくらぶ

おりーぶに入所されているご家族や、各種依存症や精神疾患など様々な理由によって生きづらさを抱えている「女性のご家族」のためのコミュニティ（集いの場）です。

おりーぶに入所されていない方もお気軽にお問い合わせください。

共感と分かち合いが問題解決の糸口になればと考えています。一人で悩まないで、みんなで生きづらさの回復を目指していきましょう。

日程：毎月第2・第4金曜日

時間：19:00～21:00

会場：非公開につきお問合せください

Tel：077-535-0313（おりーぶ）

おりーぶ新聞 2022 秋号

第000001号（季刊）

もくせいくらぶ一般社団法人へ

発足について代表理事からごあいさつ

平素はNPO法人「リバティー・ウィメンズ・おりーぶ」の事業に関心をお寄せいただき、ありがとうございます。このたび当NPO法人の事業に参同し、より多くの方々とともに応援する団体として、一般社団法人「もくせいくらぶ」を発足いたしました。

この法人は自助グループの育成、家族会の支援、イベントの協賛、募金活動など、事業の発展、充実を目指して地域福祉の増進及び充実に寄与することを目的としています。

今後引き続き皆様のご理解とご協力を賜り、より一層の幅広いご支援をよろしくお願い致します。

令和4年9月 もくせいくらぶ理事一同

各種依存症に悩む家族へ
活動の幅を広げる試みを

ご支援のお願い

「リバティー・ウィメンズハウス・おりーぶ」は、利用者負担のほか、会員の年会費と、個人・法人の皆さまからのご寄付で支えられております。当法人の活動にご賛同してくださる方は、ぜひ、賛助会員としてのサポートをお願いいたします。金額の多寡を問いません。

日用品や食料品などの生活物資も大変感謝です。随時受け付けさせていただきます。

ご支援をいただいた方にはお礼状を差し上げたく存じますので、E-mailまたはFAXにてお名前とご連絡先（ご住所、お電話番号）とメッセージをお書き添えの上ご連絡をお願いいたします。



【支援金 振込口座】

■ 滋賀銀行 / 今津支店（店番716）普通 621483

特定非営利活動法人 リバティー・ウィメンズハウス・おりーぶ

【物資支援 送り先】

■ 〒520-0502 滋賀県大津市南小松1594-357

特定非営利活動法人 リバティー・ウィメンズハウス・おりーぶ

TEL: 077-535-0313

ご支援いただいた方ありがとうございました

香椎 のり子 様

松嶋 豊 様

白汀苑 今井 一郎 様

高宮 美智 様

小山 さおり 様

木下 康代 様

神門 浩 様

米原市人権総合センター S.Cプラザ 山田 様

きまま亭しま 大嶋 美智子 様

フードバンク高島 様

清水 優子 様

山賀 隆彦 様

大鉢 佳子 様

大塚 泰雄 様

岡本 幸雄 様



ほか、匿名の方々 多数のご支援ありがとうございました。